

第7回水文科学のためのSWATモデル高度化に関する ワーキンググループ会議開催案内（第四報）

【開催趣旨】

水文流出モデルは水文過程およびそれに伴う物質移動を流域スケールで評価するための手段の一つとして、多くの研究で用いられている。Soil and Water Assessment Tool (SWAT) モデルは大陸スケールの流域（特に農業流域）における気候・土地利用変動を考慮した水・物質輸送量を推定するために開発されたモデルである。GISと親和性が高く、プログラミングに関する専門的知識を必要とせずに使用できることや、実測データが乏しい場合でも、まずまずの精度で推定できる等の特徴を持つことから近年の学術論文の多くで用いられている。流域蒸発散量や地下水涵養量など直接的な測定が難しい項目の推定や、現地観測結果の解釈など、数値モデル解析を主な専門としない水文学者にとっても、SWATモデルを用いることは非常に有益である。

今回は第7回目の開催として、蒸発散量推定について専門家を招き、SWATモデルで推定した蒸発散量が妥当かについて、原理の解説を含めて議論を深めたい。

【開催概要】

日 時 平成30年 1月 6日（土） 10:30～17:00
1月 7日（日） 9:00～12:00

※会場の建物は土日は入り口が施錠されています。会場へは10時以降にお越し下さるようお願い申し上げます。それ以前に来られても中に入ることができませんので、ご注意ください。

場 所 岡山大学環境理工学部棟1階106会議室
現地検討会；岡山市

主 催 日本水文科学会「水文科学のためのSWATモデル高度化に関するWG」
（共催）広島大学陸域環境研究会

参加費 無料

事務局 SWATワーキンググループ事務局 (swat.working.group@gmail.com) まで
電子メールでお問い合わせ下さい。

プログラム

1月6日(土)

会場：岡山大学環境理工学部棟1階106会議室

10:30 開会 (途中、小休憩、昼食休憩を挟みます。)

開会挨拶

齋藤 光代 (岡山大学)

「蒸発散推定のためのペンマンモンティース法について-原理とパラメータ」

浦野 慎一 (NTCインターナショナル株式会社)

「トレーサー法による流域蒸発散量の推定-旭川流域の例」

北岡 豪一 (岡山理科大学)

「SWAT解析による流域蒸発散推定」

清水 裕太 (農研機構 西日本農研)

「SWAT解析による積雪量・融雪量・蒸発散量推定-江の川流域」

Fandy Tri Admajaya・小野寺 真一 (広島大学)

「九州地方の森林流域での解析-菊池川の蒸発散量推定」

藤井 創一郎・金森 匡彦 ((一社)日本森林技術協会)・木下 牧 (株式会社パスコ)

「時間スケール解析による流域水・物質収支解析高度化への効果」

曹 陽・小野寺 真一 (広島大学)

「大和川流域における40年間長期土地利用変化の流域水・物質循環に及ぼす影響の解析」

王 崑陽・小野寺 真一 (広島大学)

総合討議、質疑

17:00 閉会

1月7日(日)

現地検討会；岡山市

SWATモデル適用の課題について現地を見ながら検討を行います。

以上